



■ビオトープ・サロン 佐那河内村で里山環境再生プロジェクトがスタート

徳島県名東郡佐那河内村上字遠野（村内では秋城地区と云う）において、NPO 法人市民未来共社（代表島博司）が民家再生と周辺の耕作放棄地の再生を関係団体との連携・協力で少しずつ進めてきました。そして、背後の林地も一体的な環境として再生・復元を進めることが必要であると気づき、昨年より里山再生の準備を進められ、いよいよプロジェクトが動き始めました。そこで、最新の活動写真とともにプロジェクトの概要を紹介します。（編集部）

【東京農業大学の学生が福島避難家族の交流拠点整備に汗を流す】

去る8月30日と31日、東京農業大学ローパーククラブの学生約20人のボランティア体験合宿をNPO 法人市民未来共社が受入れ、福島避難家族の交流拠点の整備に汗を流しました。最終日の夕食は、村長はじめ、村内在住の同大学OBも加わり、期待以上に有意義な活動になったことと思います。

本紙では、これから展開される[里山環境再生プロジェクト]の概要についてご紹介し、関心のある方には是非、活動に参加いただいたり、ボランティア募集にご協力いただいたりと、皆様のご支援に期待したいと思います。

■目的と意義

秋城地区は、急激な過疎化により**林地・農地の荒廃**が進んでいます。里山の環境（林地と農地の緩やかな関係）を保全・復元し、生物の生息環境の保全と耕作放棄地の有効利用を行い、**新たな里山の環境**を再生することを目的としています。保全・復元の活動を広く呼びかけ、活動ボランティアを公募・組織化することで、持続的に維持できる体制を**集落の住民**とともにつくることとしています。



古民家から北方望む



築250年の古民家:活動拠点

■活動方針と手法

①里山の生態系の復元

林地—耕作放棄地—農地（以降、3つの場という）における動植物等と耕作活動の関係を明らかにし、里山の**生物生息環境と農地の営農環境のバランスを回復**していくこととします。3つの場における動植物の現地調査を行うとともに、地域住民にかつての棚田・段々畑の状況や生物の姿等をヒヤリングし、**地域の環境で復元の可能性のある種**を明らかにします。



古民家裏山に子どもたちの遊び場整備



地形に合わせて悪戦苦闘

なお、今年度の動植物調査は、当法人が借りている民家周囲の有用植物と耕作放棄地を中心に進めます。

②林地・農地の保全と復元

かつてからあった林地（コナラ、クヌギ、シイ、山ザクラ等）と植林地（杉・桧）をできるだけ保全しながら、**耕作放棄地の復元、或いは林地に返していく方法**を検討します。このため、耕作放棄地と植林地の状況を把握しながら、かつての営農状況をヒヤリング（村役場、集落の農業者等）し、水路の整備と復元（修復を含む）を含めてどこまで

復元できるかを検討し、関係者で計画化します。農地の復元は、**今後の環境農業を進めるためのモデル的な実験農園**として整備します。

③グリーンツーリズムの構築

当法人が運営する古民家では、既に、会員及びNPO関係者、村が招聘する講師や専門家等が宿泊しています。現在の宿泊は、母屋の客間を対象としていますが、宿泊規模を拡大するため、倉庫を改築中で、母屋が家族泊、倉庫が若者向けで、単身或いはグループ宿泊を検討しています。**農業体験、自然体験**は、上記の復元途上の**ボランティア作業や自然体験等のプログラム**をつくり、今後のグリーンツーリズムの推進に役立てます。

④管理運営体制の構築

平成27年度には**持続的な運営体制**をつくるための検討に入り、28年度に里山再生を軌道にのせていく体制をつくる予定です。上記①、②を含めた事業を当法人と関係2団体で事務局をつくり、徐々に構築します。（ピザ釜の如く活動の炎が燃え続けますように。編集部）



休息の一時 力が有り余るのか？



手作りのピザ釜も活躍



招待客を交えたお別れ夕食会



勢いよく燃えるピザ釜

■ビオトープ・サロン ビオとくコーナー ～ビオトープ管理士頑張る～

7月から8月の活動について、ビオトープ管理士の活躍を簡単ではありますが紹介します。 (編集局)

【7月から8月の活動】

- 7月 5日 榎本管理士 日本ビオトープ管理士会理事会において生物多様性保全に関する徳島の現状・課題を報告。
- 7月~10月 稲飯管理士 (特非)徳島保全生物学研究会主催の「スマホ生きもの調査」において運営管理を主担当。
- 7月 20日 土井管理士 生物多様性とくしま会議主催の講座で「人とニホンジカとの共存」について講師担当。
- 8月 2日 片山管理士 生物多様性とくしま会議主催の講座で「人工林と天然林の健康診断」について講師担当。
- 8月 4日 榎本管理士 (特非)市民未来共社主催の「里山環境再生プロジェクト」の推進と実施計画について助言。
- 8月 5日 土井管理士 県庁舎見学デー!におけるミニ講座「生物多様性とくしま戦略について」の講師を担当。
- 8月 31日 榎本管理士 (特非)市民未来共社主催「里山環境再生プロジェクト」のボランティア仲介者として参加。

■ビオトープ・カルテ みんなで集めるビオトープ情報 各地で定着し確実に群落が拡大している

記者：榎本幸実(会員)

【オオフサモが群落を形成】

ビオトープ・タイプ
河川

規模
約2000㎡(L100m W20m)

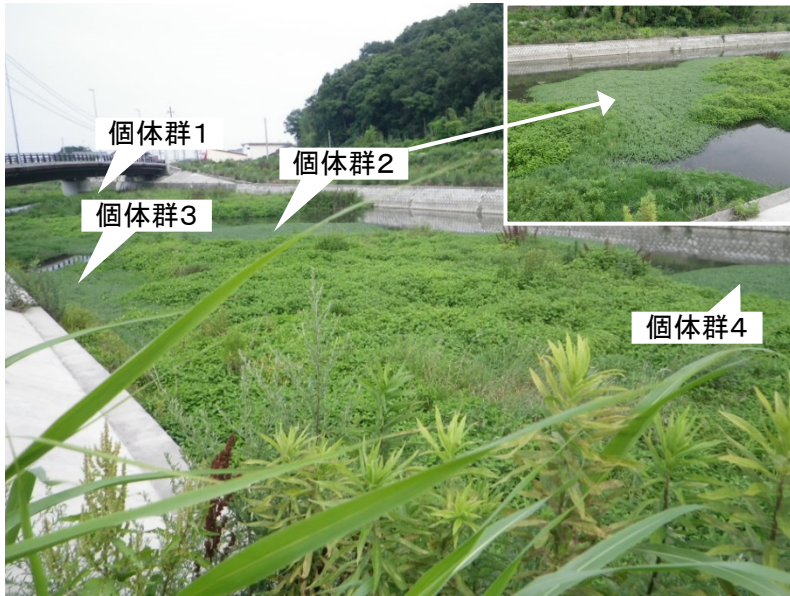
環境特性
C.B.で護岸整備された河川

周辺土地利用
国道/線路/樹林地

撮影年月日
2014年7月2日

場所
吉野川市山川町山瀬(蛭川)

各地の河川で定着が確認されている。



■ビオトープ・セミナー 資格試験に挑戦して基礎知識を修得しよう!

ビオトープ管理士資格試験過去問題 出展：(財)日本生態系協会主催「ビオトープ管理士セミナー」のテキストより
無断転載禁止：本紙は公益財団法人日本生態系協会の許可を得て転載しています。 (編集局)

【生態学の択一問題：正答と解説は次号で紹介】

問70：次の文のうち、誤っているものはどれですか。

1. 生産者→草食動物→肉食動物といったひとつのつながりの捕食・被食関係を「食物連鎖」という。
2. 生産者に対して、草食動物や肉食動物のことを「消費者」という。
3. 生産者が捕食・合成したエネルギー・有機物は、捕食・被食関係を通じて、草食動物→肉食動物へと受け渡されている。この受け渡しの各段階を「食物網」という。
4. 生産量は、草食動物の方が、一般的に、肉食動物よりも大きい。
5. 生態系で最も大きな生物量を占めるのは、一般的に、生産者である。

■前号069の解説

市街地を流れる水路を改修して、水辺植物や河畔の樹木が生育する自然に近い小川を再生した場合、自然面、社会面で期待される機能、管理上の課題の主なものは次項が挙げられる。

自然的機能：水生生物の繁殖地、ビオトープ・ネットワークの中継軸として重要。

社会的機能：環境学習の場として機能する。育成や維持管理には、市民や愛護会、幼稚園や小・中学校生徒による観察クラブ等を組織し、環境学習も兼ねて市民参加で行うことが望まれる。

管理上の課題：目標像とする生態系の形成状況のモニタリング、浚渫や植物の間引きの継続的な改善や維持活動、浚渫時には希少種の一時避難等の保全策、河岸のエコトーンに連続する草地の維持管理として5~9月の間に2~3回の草刈り、刈り草は集積地に搬出し堆肥化、特定外来種の駆除など。

※2級はどなたでも受験でき、四国の受験会場は「徳島大学工学部」です。自然環境の保全に関わる方には、是非とも取得していただきたい資格です。詳しくは、<http://www.ecosys.or.jp/> (公益財団法人 日本生態系協会HP)

■編集後記

ビオトープに関するお役立ち情報はもとより、皆様の生活や活動やお仕事等、日常を通じて見たり感じたりしたこと、身近な自然の春夏秋冬や喜怒哀楽のご寄稿をお待ちしております。ふるってご参加ください! 編集局
【E-mail: kanv@nifty.com URL: <http://biotopetokushima.yu-yake.com>】